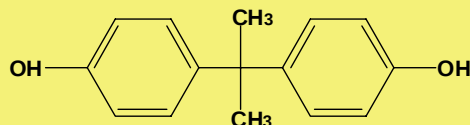
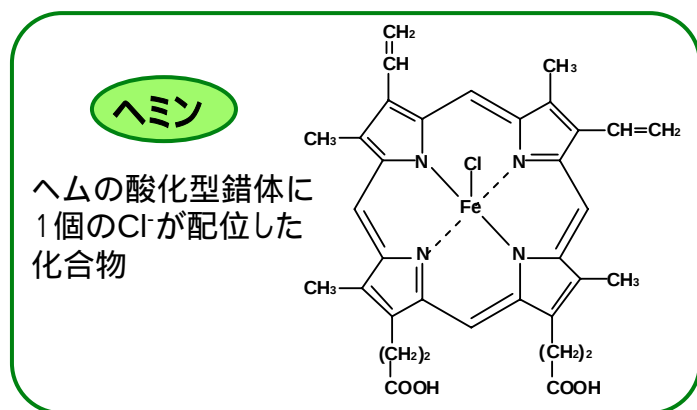


環境ホルモンの新規分解技術

- ヘミンによるビスフェノールA等有害物質の分解 -

【技術の特徴】

ヘム構造 (ヘミン) のみで有害物質を分解



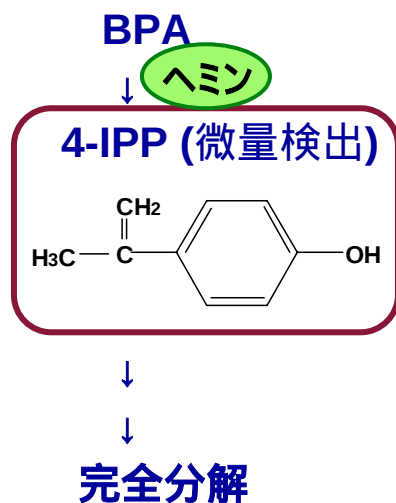
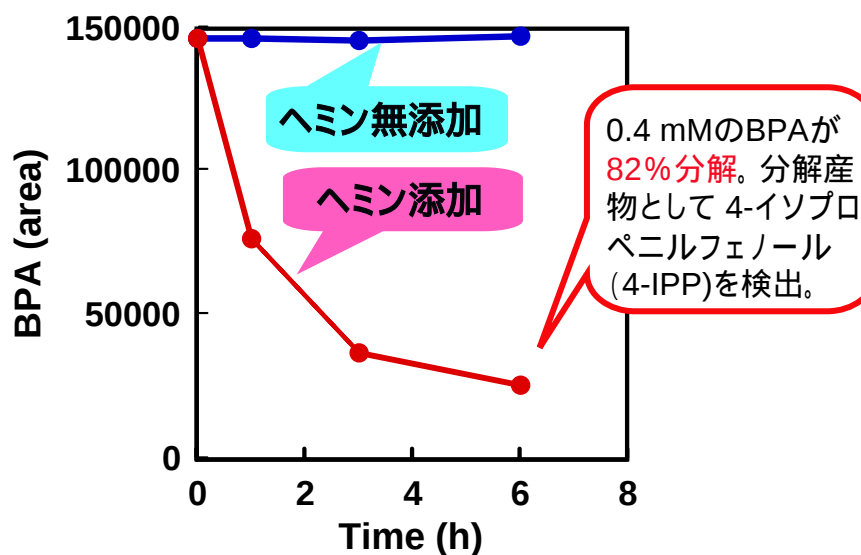
ビスフェノールA (BPA)

環境ホルモン (内分泌攪乱物質)
食器や缶詰から検出されることがある

- ・常温・常圧、中性条件下での処理が可能。
 - ・ヘミンは安定性・保存性に優れる。121 15分間の処理にも耐える。有機溶媒中でも利用可能。
 - ・ヘミンは自然界に存在するため、人体に対する安全性は保証されている。
- このため、食品や食器類などに混入している環境ホルモン物質の汚染除去に即利用可能である。

【研究の内容】

ビスフェノールA (BPA)の分解



【今後の展開】

他の環境ホルモン物質 (4-オクチルフェノール、ノニルフェノール、エチニルエストラジオールなど) についてヘミンによる分解を検討予定。



独立行政法人
食品総合研究所

代表研究者: 中川 博之、矢部 希見子
所 属: 生物機能開発部 細胞機能研究室
問合わせ先: 〒305-8642
茨城県つくば市観音台2-1-12